

1 事業名

平成28年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア・秋～

2 趣旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期日 平成28年9月10日（土）～11日（日）

4 参加者 28名（高校生1名，大学生27名）

5 後援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内容

（1）日程

日時	9:20	9:40	10:00	10:50	11:45	13:00	13:30	13:50	15:00	17:30	18:30	20:00	21:00	21:30	22:30	
9/10 (土)		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての 打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 フレンドリーゲーム アイスブレイク	活動2 わくわく！「秋のごちそう」クッキング 野外炊事	活動3 オータムキャンプファイヤー キャンプファイヤー	入浴	就寝指導	振り返り	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:00	12:00	13:00	14:00	14:30	15:00	15:15					
9/11 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	活動4 キラキラメモリークラフト 創作活動	昼食	片づけ	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散	太枠で囲まれている部分は小学生との活動		

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家

副主任企画指導専門職

佐々木 真里子

企画指導専門職

鎌田 信浩

事業推進係

山崎 啓陽

事業推進係

高橋 知也

・指導補助

法人ボランティア

13名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークチャレンじくらぶ・秋」の企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの3名を統括リーダーとして配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場でかかわる体験ができるように企画した。

（4）広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学，高等学校，報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

第1日目の午前中に実施した「事業運営並びに活動支援についての心構え」の講義では、子供とかかわる上でのリスクマネジメントに関する内容や、活動のタイムマネジメントに関する内容、指導者として子供とかかわるときに気を付けたいことなどを、支援セミナー参加者に分かりやすいように資料を提示しながら話すなど工夫した。小学生を迎えての活動に備えて、参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。さらに、事業の企画・運営についての事前説明及び実際の運営を、法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から、組織的な運営を心がけた。具体的には、法人ボランティア3名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票をもとに児童の健康面や心理面、保護者からの特記事項等を把握することで、支援セミナーの参加者と児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供が2日間、楽しく過ごせるように、2～3名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷いた。運営スタッフとして参加している法人ボランティアも、子供とのかかわり方等についてセミナー参加者にアドバイスを行えるように配置した。

活動の振り返りは、体験活動支援セミナーの参加者も法人ボランティアも、それぞれ別時刻に設定し、子供から大人が離れることがないように配慮した。(補足資料1を参照)

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めの頃は不安もあったが、グループリーダーとして子供と深くかかわり、真剣に向き合う中で、子供達への接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。アンケートの自由記述から、セミナー参加者自身が、次の活動や将来への見通しに対する気付きが見られる事業となった。また、子供とかかわる体験は、法人ボランティアとして他の事業へ参加するきっかけになると考えられる。体験活動支援セミナーを入口とした、法人ボランティアの拡充も大いに期待できると思われる。

9 今後の課題

体験活動支援セミナー参加者に対して、ミーティングの時間を十分にとることができなかったのが、グループリーダーとしての見通しをもたせることが難しかった。また、各活動内容とそれにかかわるスキルを理解する時間もたりなかった。事業に参加することで子供とかかわれることはもちろん、体験活動のスキルを高めていくことにも価値をもたせていきたい。そうしたプログラムを構成していく上での時間の確保が難しい。このことから、ボランティア養成講座である「How To ボランティア」と、この「体験活動支援セミナー・秋」、「体験活動支援セミナー・冬」へとつながりをもたせ、それぞれの講義の内容を精選し、テンパークちゃれんじくらぶに向けた実践的な内容にしていく必要がある。そうすることで、参加者自身が意欲と自信をもって子供たちとかかわることができるようにしていきたい。

企画・運営にかかわるボランティアについて、人材を適材適所に配置すること、また、組織の役割に対しての動きの確認をする時間が必要である。



法人ボランティアによる企画説明



子供との出会い（アイスブレイク）



わくわく！「秋のごちそうクッキング」（野外炊事）

補足資料1 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

【各階層の役割】

本部MT…全体の最終判断を行う。

アドバイザーMT…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の最終決定をする

スタッフMT…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の最終決定をする。また、各活動プログラムの補助スタッフとして、主に物品の準備等を行う（自らの担当の時間帯はスタッフに指示を出すリーダーとなる）

生活班MT…主に子供の状況把握に勤める。健康状態や怪我、安全確保について情報を集約する。点呼や様々な相談は迅速に統括チームに情報を伝達する

スライドショー撮影MT…写真の撮影及び選定、スライドショーの作成を行う

生活・活動班の役割 … 班の子供の安全管理及び生活指導を行う。

- ①人数把握をこまめにする
 - ②自分自身が模範となり、生活指導を行う（食事、入浴、ベッドメイキング、活動場所の使い方等）
 - ③心と身体の安全を確保する
 - ④自然の中で、十分楽しませる
 - ⑤些細なサインを感じる
- ※点呼の報告は統括リーダーに伝える。子供との関わり方等の悩みや相談は統括リーダー、統括チームが対応
 その他、キャンプ中に発生する様々な事象について、統括リーダー→統括チーム→本部MTの順で情報共有を図る

スライドショー作成の手順

プレゼン作成ソフトを使用
 チームで全体の構成を練る
 ↓
 カメラスタッフが撮影し、良い写真を選定する。（各プログラム30枚程度）
 ↓
 編集チームがPCを使って作業
 ↓
 完成

本部ミーティング



スタッフミーティング

フレンドリーゲーム	「秋のごちそう」クッキング	オートキャンプファイヤー	メモリークラフト	スライドショーMT
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ
法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ	法人ボラ

生活班ミーティング



生活・活動班

- 1班
- 2班
- 3班
- 4班
- 5班
- 6班
- 7班
- 8班
- 9班

体験活動支援
 セミナー参加者
 各班2～3名